

「横瀬川ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時：平成 24 年 11 月 10 日（土）19：00～20：00

場 所：四万十市 四万十市立中筋中学校（体育館）

発表者：意見発表者

○住民（1 番）

皆様、こんばんは。私、●●をしております、●●と申します。よろしくお願ひいたします。

●●をしていると同時に、●●もいたしております。今日の意見発表でございますが、個人としての意見及び●●としての意見、同じでございますので、両方の意味合いからの意見とさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは早速、意見発表に入らせていただきます。

私の意見ですけれども、まず、結論から申し上げますが、ダムはどうしても造っていただかなければ困るというのが私の結論でございます。一住民としての結論でもありますし、●●として、中筋地区の住民のほとんどの皆様方の意見を伺いますと、どうしてもダムは必要だと。これは「今まで、ここまでやってきた以上、今さらやめられては困る」という方ばかりでございます。

決して大げさに申し上げる訳ではございませんが、私が●●を始めましたのが平成●●年の●●月からです。以来、そのすぐ後から、この事業が始まったと思ひますが、それから今日に至るまで、中筋川総合開発工事事務所長が今まで何人代わられたか覚えてないぐらい、多く代わられました。その間ずっと、この地域の●●として、或いは個人的にも、このダムがどうしても必要だということで、国土交通省にも私なりに一生懸命、協力もさせていただいた訳でございます。それは、個人的に「どうしてもダムが必要だから」という信念の一途からでございます。

同時に、「どうしてもダムでなければいけない」という思いと、もう 1 つこの場をお借りして発表させていただきたいのは、報告書(素案)の中にはございませんが、今まで国土交通省が、この事業をやつてこられた中で、一生原の住民、10 名くらいの住民が移転を余儀なくされました。その中の 1 人に私の親しい者がいまして、その友人のおじいさんが、数年前に亡くなりました。一生原を出て、病床に就いてから、ずっと口癖のように言っていたことが、「わしはやっぱり昔からの一生原の自分の家で死にたかった」ということを毎夜のように言いながら亡くなっていったと、このようなこともございます。そういったことは、報告書(素案)にはなかった訳です。ぜひ、そういったこともありながらの今日であるということも、ご理解いただきながら、どうしても横瀬川ダムを造り上げて完成までもっていただかなければいけないと、そのように考えております。

この報告書(素案)の中から、私と同じような意見が綴られているわけですが、いただいておりますこの資料の P6－7 を見てください。「遊水地案について、横瀬川ダムの貯水池を遊水地でカバーするための農地を確保することは非現実的」、「これまで治水事業で守られてきた優良農地を取り上げ犠牲にすることは、地元としては受け入れない」という文章がありますが、これも私の考え方、意見と同じでございます。

同じように、私と基本的に全く同じような意見が書かれておりますので、少し紹介したいと思ひます。P6－9 を読みますと、「遊水地が想定されている江ノ村箇所は、つるの里づくりとして自然再生協議会

も全面的に支援を行い、ツルの越冬地造成や無農薬米の栽培など、地域全体として活動が行われ農業基盤にもつなげられている」と書かれております。これも私の意見と同じでございます。そして、「当地域は地域経済が低迷する中で農業が大きな経済基盤になっており、最近では無農薬米の栽培など新たな農業の取り組みも進められている」というところ。更にその半分から下、これも私の考え方と同じであります。他にもそういうところは、沢山あるわけですが、うまく言えませんので、この報告書(素案)の中を引用させていただきましたが、私の気持ちとしてはそういうことであります。

同時に、現在四万十市、旧中村市の一住民として、当然のことではあります、皆様方も他の住民も市民も同じことだと思っております、去る10月26日の高知新聞の記事も引用させていただきたいと思っております。表題が「横瀬川ダム建設有利」という、この記事でございます。この中に高知県知事、それから四万十市長、宿毛市長のお考えが述べられております。我々の代表の意見でございますし、我々市民としては、代表が考えていることに従うというのは、これは当然でございます。以上、うまく言えませんが、このような自分の考え及び県、市等の意見も踏まえた上で考えますと、ダムというものはどうしても造っていただかなければいけない。もうダムしかない。こういう気持ちを申し上げたいと思っております。

○住民（2番）

ただ今、ご紹介にあずかりました●●と申します。この度は横瀬川ダム事業の検証報告に対する意見発表の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。お礼を申し上げたいと思っております。今日の意見であります、多少それた意見になるかも知れませんが、ご了承いただきたいと思っております。

私は、この中筋川流域で生活をして半世紀以上になります。この間、幾度となく洪水被害に悩まされ続けてきました。ある年には洪水で溺れかけた児童を助けた方が、不幸にも自分の身を犠牲にされるという、大変悲しい出来事に遭遇したこともありました。また、地域の主要産業である水稲栽培にも大きな被害を及ぼす、まさしく農家泣かせの中筋川でもありました。

こうしたことから、私どもは地域を挙げて、各行政機関に対して、抜本的な治水対策を訴えてきました。その結果、中筋川の流路延長工事や河床整備、或いは堤防工事などの対策が段々と図られてまいりましたが、まだまだ十分だとは言えません。

特に私どもの地区の現状を申し上げますと、強制排水の機能を備えておりません。よって、内水の処理は自然流下に頼る方法しかございません。このため中筋川の水位が上昇すると、水門を閉鎖するわけですが、この操作を行うと必然的に内水は滞留して地区内の道路という道路は全て冠水します。このため通行ができず、また民家などへの浸水被害も発生するという深刻な問題が起こり、住民生活に大きな支障をきたしている状況にもあります。

今回の横瀬川ダムの検証における治水対策案といたしまして、河道掘削、引堤、堤防のかさ上げ、遊水地あるいは放水路といった多くの対案が出され、それぞれ専門分野で検討がなされたようであります。

先ほども述べましたが、度重なる水害に悩まされ、耐え続けてきた立場から申し上げますと、洪水時における中筋川の水位をできる限り低下させ、流下能力を向上させる対策の実現を強く望むものであります。それには、河川改修工事の促進はもとよりであります、洪水発生の源である中筋川上流域における、ダムによる調節、これが最も理にかなった方策であろうと考えます。

この流域には2つのダム計画があり、その1つの中筋川ダムは平成11年から運用が開始されており、昨年7月の台風6号時の磯ノ川地点における水位低下が56cmと、洪水調節効果が顕著に現れておりま

す。また、10月の低気圧では、避難判断水位を81cmもオーバーする危機的な水位上昇があったということでもあります。このときもダム洪水調節により79cm水位が下がったという説明もありました。これに横瀬川ダムが加われば、更に大きな水位の低減効果が期待され、流域の洪水氾濫防止効果が高まることは明らかであります。

次にダムの運用について申し上げたいと思います。ご承知のように、この2つのダムは多目的ダムとして位置付けられておりますが、水利用が十分になされていない状況にあると思います。中筋川ダムにおける利水は、水道用水1日最大2,000 m³、工業用水1日最大8,000 m³、かんがい用水年間190万m³という、大変多量の水利用が計画されているにも拘わらず、利用されている量はゼロに等しいのではないかと思います。もしそのようであれば、実にもったいなく残念でなりません。理由は色々あるかと思いますが、運用が始まってから相当時間も経過しており、利用方法を再検討されてはいかがかと思いません。

昨年3月に発生した東日本大震災に起因した原子力発電所の大事故は、国民生活に大きな影響を及ぼし、未だに再生の兆しも見えない深刻な状況にあります。生活に必要な電力供給として、今、全国的に代替エネルギーによる電力の確保が叫ばれております。そこで今、利用されていないこの再生可能なダムのエネルギーを活用して発電を行う、そういうことも検討されてはいかがでしょうか。

また、水不足も色々論議されておりますが、こういった水不足に悩む地域に対して、このダムの水を有効に活用してはどうだろうか。新たなダム利水の活用策として検討することにより、多少なりとも財源確保に繋がるのではないかと考えます。

私が子どもの頃の中筋川は、コイやフナ、エビやウナギ、これらを掴みながら遊びましたし、またカワウソを目にしながらか遊んだことも懐かしく思い出されますが、いつのころからか、これら水生動物の数も少なくなり、カワウソに至っては絶滅しました。このような自然環境の悪化の原因の多くは、人間によってもたらされたものだと思います。

これからは、このような環境を改善することも、私たち住民の務めだとも思いますが、河川行政を担当する皆様におかれまして、このような観点に留意をされまして、適切なダムの運用また維持管理に、ぜひ心配りをお願いしたいと思います。

故事の中に、確か「国を治める者、水を制す」という言葉があったように記憶しておりますが、まさしく治水とは洪水対策のみならず、水の有効利用と水辺環境の保全、これを一体的に取り扱うことだと、私は考えております。

事業主体の国土交通省の皆様には、これが正しい治水対策だという方向の決定がされましたら、決してぶれることなく、住民福祉の向上と地域の発展を図るため、このダム事業の1日も早い完成に向け、さらにご尽力・ご努力をされることをお願いを申し上げます。私の意見とさせていただきます。ありがとうございました。

○住民（3番）

皆様、こんばんは。意見というほどの力を持ったことは、私は言えませんが、前月の10月25日の検討の場で、横瀬川ダムの建設の継続の是非を協議する検討会議が開かれました。

四国地方整備局が、現行の計画と代替案の比較の結果を発表しておりました。それはコストの面から見ても、ダム建設が最も有利とする評価(案)を提示されておられました。

先日この場で、私たちは、「横瀬川ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」をいただきました。大変立派なものであります。なかなか読み切れないものでありましたが、素晴らしいものであります。私は、その中で「横瀬川ダム案」以外の対策はあり得ないと思います。

横瀬部落は全長4kmに及ぶ、細長い部落であります。中に川を挟んだ部落でありまして、80町歩の田畑があります。昔の古い人の話であります。明治3年の大洪水がありまして、家屋や人馬が流され、そして田畑は荒地と化してしまいました。大変生活にも苦勞しておりました。

また大正9年8月に、同じ規模の大洪水がありました。同じく人畜・家屋が流され、田畑は荒地と化してしまいました。稲作は皆無の状態になってしまいました。大変生活にも困難をしておりました。度重なる洪水によって、横瀬川は2カ所も川が変更になっております。よって大正10年、耕地整理組合を結成して、河川と農地の改良事業に大きな費用を費やしてまいりました。何年もかかって負担金をみんなが一生懸命払って、大変苦勞をいたしました。横瀬部落は今までに、土地改良事業を4回もいたしました。大変住民には負担をかけました。しかし、災害から生命を守り、財産を守り、地域の生活の活性化のために私どもは全力を尽くしてまいりました。

今、大物川に300mm、400mmの雨が、4時間、5時間降れば、横瀬地区はまた大正9年の大洪水と同じような状態になると思います。どうかダム建設の再開を1日も早く決定していただきたいと部落民一同、切に願っておる次第であります。

あまり意見というほどのことは言えませんが、今、簡単に私の思ったことを言ったものであります。横瀬川は、谷が大変深く、大物川の上流は勝間川の打越地区まで繋がっています。それで大きな雨が降れば、水量というものは非常に大きい強い水となって流れてくると思います。

このダムは横瀬川のためだけではないのです。多目的ダムで、四万十市、宿毛市、しかも一番関係する八東地区、まだまだ大きな水害に見舞われております。どうか1日も早く、このダムの完成を願うのでありますが、政権が交代してストップをしていますが、早く継続をしていただくような運動をしていただきたいと願う次第であります。

また、新しくできるダム湖の上流には、「須多ノ舞」という滝があります。大物川のそこに大物川須多権現神社という今も神様を祭っております。私は、できるだけ早くダムを完成していただいて、ダム湖を新たな観光資源とした地域の振興に役立てたいと思っておるものであります。

○住民（4番）

皆様、こんばんは、私、●●と申します。

去る11月5日の夜ですね、この場所で、この「横瀬川ダム建設事業に係る報告書(素案)」の説明会と、そのご案内をいただきまして、懇切丁寧に概略の説明を聴かせていただきました。

その感想とまた自分なりの思いというものを、少し述べさせていただきたいということで、この場に立たせていただいております。何分不慣れでございますから、その点1つよろしくお願いを申し上げたいと思います。

まずはこの報告書(素案)は、横瀬川ダム建設ありきというのではなく、中筋川流域の治水や利水をも含む総合的な見知から、ダム建設に代わる様々な方策を全方位で検討・精査くださり、全ての面で、やはり横瀬川ダム建設が最善の方法であるとの素案をお示しいただきました。国土交通省の関係各位の皆様方に、この文書作成作業に対してのご努力に、敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

また数回の幹事会が行われたという中で、県知事をはじめ、関係市長からも早期に工事の再開を促す意見が出されておりますのも、当然のことと言えるのではないのでしょうか。

私も何回か「中筋川の治水を考える会」に出席をいたしまして、流域内の各区長様の工事再開への熱い思いを肌で感じた次第でございます。

もともと横瀬川ダム建設事業は、中筋川総合開発事業の一環として種々検討され、工事が着工されたと承知をいたしております。また、特筆すべきは、ダム建設用地での家屋移転 100%、用地取得 88%と、この数字を見ましても地権者各位の住み慣れた我が家や父祖伝来の土地を断腸の思いで手放しての理解と協力が見て取れるのであります。しかしながら、政権交代という大きなうねりの中で、中断を余儀なくされたのは、残念の極みと思っております。

私ども●●にとりましては、長い歴史の中で、地域住民の尊い命や貴重な財産をも奪ってしまう洪水被害に悩まされ続けてきたという過去の経緯がございます。平成 11 年の中筋川ダムの完成により大幅に改善されてきたのでありますが、いまだ一部地区では、慢性的な浸水被害も続いており 100%とはいえない現状であります。横瀬川ダムの早期完成によりまして、より安心・安全な生活が保障されるものと期待するのであります。想定外という言葉が死語になりつつあります現在、内水面での対策も含めて、十分に考慮した工事再開を住民の 1 人として、切に願うものであります。

また、原発事故を機に、原子力に頼らない自然エネルギーが叫ばれておりますが、当地域には坂本ダム、中筋川ダム、そして完成するであろう横瀬川ダムという、電力を生み出す素晴らしい施設があり、この施設をフル活用し、今以上の発電が可能かどうか、英知を結集し再検討していただき、工事再開とともに、両面に取り組んでいただきたいと思いますをお願いを申し上げまして私の意見といたしたいと思います。ありがとうございました。